

第 1 回 舞鶴市子ども・若者支援会議 産前・産後サポート部会 議事録(要約版)

日 時：令和 6 年 8 月 9 日（金） 13 時～ 15 時

場 所：舞鶴市中総合会館

参加者：別紙のとおり

委員 10 名 事務局 6 名

1. 議事等

- (1) 部会の設置について
- (2) 舞鶴市から現状報告
- (3) 各機関から現状報告
- (4) 意見交換

2. 主催者挨拶（部会設置の背景）

現在、来年度からスタートする『第 3 期 子ども子育て支援計画』を作成している。子どもに係る施策の中で、最もピックアップすべきが産前・産後ケアであるとの認識であり、今回、舞鶴市子ども・若者支援会議の下部組織として産前・産後サポート部会を設置した。本部会は、この計画の進捗管理のため、来年度以降も継続したい。市民の方々を交えた産後ケアのイベントもあり、本部会の議論がこのような活動にも繋がっていけると、より連続性が出てよいと考えている。

3. 部会の趣旨説明

4. 部会長の選出 市から NPO まいづるネットワークの会副理事長 上野氏を推挙 ⇒ 承認

5. 舞鶴市から現状報告 ー資料「産前・産後サポート部会」に沿って事務局から説明ー

6. 各機関から現状報告

ー資料「産前・産後サポート部会情報共有シート」に沿って各機関から説明ー

7. 意見交換

【最近の妊婦・子育て家庭の傾向】

- ◆ 電話が繋がらない、SNS 命、情報は全部携帯から取る。赤ちゃんを泣かすことへの罪悪感がある母の増加。⇒この変化に支援者が合わせていけないといけない時代。
- ◆ SNS での連絡やサービスを利用するための行動ができない、パートナーに助けてと上手く伝える気力もなく、全部自分で抱えるという負のループに陥りやすい。
⇒いつでもそこへ行けば人に会える、話せるというリアルな場が必要。かつ、SNS で（地域へ）出られないレベルの人から救っていきけるしくみが必要。
⇒ちょっと体を動かして、子育てする体力と気力を作っていく機会があちこちでできるとよい。
- ◆ 泣くことへのネガティブなイメージが強く、子どもを預けづらい方もあるが、泣いている子どもでも預かってもらえる、こういう私でも受け入れてもらえると思える信頼関係を築くプロセスが大変。
- ◆ 1 歳で仕事復帰する方が多いので、地域の中でママ友との付き合いや支援者、地域の支援サービスと触れる機会、親として、大人として学んでいく期間が短い。
- ◆ 保健師や病院のスタッフには虚勢を張って弱さを見せないが、助産師に弱音を吐かれる方もあり、

一面だけで捉えにくい。

⇒信頼関係ができて初めて内面が出せるので、お母さんが心を開ける場所が、日々必要。

- ◆ 赤ちゃんが泣いた時に対応がわからない人や退院後の生活のイメージがつかず、帰ってから現実を知ってうまくいかない「できない私が悪い」と自分を責め、エジンバラが高くなる。

⇒医療機関から退院後の生活に不安を感じる人を地域へ情報提供していくことが大切。

【関係機関の連携・支援の継続性】

- ◆ 妊娠中のフォローは地域のひろばや助産院、助産師会でサポートし、その情報を医療機関に伝え、医療機関から地域に帰ってくる時は、つないでもらうという仕組みが舞鶴市でできたら理想的。
- ◆ ひろば利用者からも電話やメール相談があり、逆に、メール相談がファーストコンタクトのこともある。どういう形でも母の安心できる出会い、どこかで繋がっていく体制であるとよい。
- ◆ 切れ目ないサイクルを作るために、関係機関をつなぐ場合、個人情報の取り扱いはどうなるか。
⇒妊娠届の時に、妊娠、出産に関する関係機関と情報共有するための同意を母にとっている。実際つなぐ際に、再度母に情報提供の同意を得た上で、繋いでいけたら良い。

【予防的観点】

- ◆ 軽微な時点とか問題が重大になるまでに見守れる体制となるよう、地域でも見守れるように早い時期に情報が欲しい。
- ◆ ハッピーマタニティーひろばに参加することが当たり前になるようにしたい。生活支援の目線と医療の目線で母を見守ることができる。

【マンパワー・予算】

- ◆ 産後ケアのマンパワーが足りない。人とお金の両方を考えないと難しい。また、上の子の預かりがないので年子の方が拾いきれてないとか、交通手段の確保という課題もある。低所得者の利用が少ないと感じる。自分の体にお金を使うのがもったいないという感覚があり、ママと赤ちゃんのために使ってもらうクーポンのような形を望む。
- ◆ 病棟・外来でローテーションして、妊娠中から顔合わせができればよいと思うが、助産師が不足している。

【まとめ】

- ◆ 支援者は産後支援が大事だと思っているが、当事者はまだそこまでの意識がない、忙しい、余裕がないなど今の妊産婦の傾向を含め、現状の支援、課題について共有ができた。
- ◆ しんどくなったら医療機関で、楽になったら地域に戻ってくる、そのサイクルがうまくできるようなシステムの構築に向けて、支援者が情報共有しながら色んな方が関わり、アプローチをかけて、誰かが救い上げるようなよい産後支援になるように意見交換を深めていく。

8. 閉会 次回

日時：令和6年8月30日（金） 13時30分～15時30分

場所：中総合会館 3階 集団健診室

第2回 舞鶴市子ども・若者支援会議 産前・産後サポート部会 議事録(要約版)

日 時：令和6年9月12日（木）13時30分～15時30分

場 所：舞鶴市中総合会館

参加者：委員10名 事務局6名

1. 議事等

- (1) 第1回部会のまとめ
- (2) 産前産後支援のめざす方向性について
- (3) 意見交換

2. 主催者挨拶（部会設置の背景）

前回、いろいろとご意見をいただき、現状や課題の共有ができた。今回はもう少し踏み込んで何ができるか一緒に考えていきたい。広報まいづるや9月議会でも「産前産後サポート部会」の話題は出ており、注目もされている。こども家庭しあわせ課としても、この部会での意見や方向性をベースに事業や予算を考えていきたいと思っているので、お願いします。

3. 第1回部会のまとめ

【産前産後の支援体制の現状と課題】

資料1、資料2のとおり

【舞鶴市の取り組みの現状】

資料3にて説明

(質疑・意見交換)

- ・妊娠7か月頃のアンケートとはどんなものか？

⇒出産子育て支援の伴走型支援として実施しているもので、妊娠7か月頃にアンケートを個別に郵送。不安なことがないか、サポート体制が整っているか、出産に向けた準備は順調かなど確認しており、希望者や必要と判断した妊婦には助産師面談や電話相談を実施している。アンケートの返信がない場合は、担当者が電話をかけてフォローしている。アンケートは電子回答としている。

- ・このアンケートは、質問の仕方や回答方法（面談にするなど）等を工夫することで、妊娠期からの密な関わりにつながるのではないか。

4. 産前産後支援のめざす方向性について

こども家庭しあわせ課からの提案（資料4）を基に意見を出し合う。

- ・「すべての妊産婦が」⇒「すべての妊産婦とその家族が」
- ・「しあわせを感じながら」を追加
- ・最後に「舞鶴」をつけては。

目指す姿（ビジョン）は

『全ての妊産婦とその家族が必要なサポートを選択し、しあわせを感じながら

安心して産み育てることができる舞鶴』で決定

5. 4で決定したビジョンに向けて、各機関が担う役割について **資料5**

目指す姿に向け、この先5年間を見据えて、各機関が「できること」を出し合う。

出された意見は **資料5-1** のとおり。

6. 意見交換

【知識の周知・啓発】

- ・妊娠中に、妊娠期～産後の心身の変化や生活の変化を周知して備える機会が必要。（症状・心身の変化はだれでも起こりうる・改善方法がある・家族のサポートが必要）また、職場の理解も必要。
- ・赤ちゃんのお世話、夜の授乳、家事など産後どんなことが起こりうるか、想像しにくいので、具体的に伝える必要がある。
- ・父が育休をとるタイミングなども具体的に伝える（入院中や里帰り中にとっても意味がない）
- ・知識がつくだけでなく、トライしてうまくいかなくてもフォローができ、支援者が必要な支援にバトンを渡していけるしくみが必要
- ・産後の生活が見据えられる冊子（睡眠時間・自分の時間・買い物・洗濯・・・）があると何とかなる⇒備えられる
- ・妊娠期から産後ケアを知っている

【支援体制】

・高浜町のすまいるマルシェは、町内にあるすべての産後支援がマルシェ形式で集結。母が必要な支援を選択可能で、産後1年まで無料で何回でも参加可能と聞いた。参考にできることもあるのでは。

【まとめ】

- ◆委員全員で、産前産後サポート部会としての目指す方向性を確認することができた。
- ◆めざす方向性（ビジョン）に向かって、それぞれが「できること」を出し合う中で、『医療機関と地域のサービスがもっと連携してつながろう』との意見が出され、顔の見える関係から、新たなつながりができた。
- ◆次回3回目は、第2回子ども・若者支援会議に上程できるよう、部会としての意見・方向性をまとめていく。

7. 閉会

次回

日時：令和6年9月27日（金） 14時30分～16時30分

場所：中総合会館 3階 集団健診室

第3回 舞鶴市子ども・若者支援会議 産前・産後サポート部会 議事録（要約版）

日 時：令和6年9月27日（金）14時30分～16時30分

場 所：舞鶴市中総合会館

参加者：委員10名 事務局5名

1. 議事等

- （1）第2回会議のまとめ
- （2）意見交換
- （3）今後の方向性の検討
- （4）まとめ
- （5）閉会

2. 第2回会議のまとめ

○めざすべき方向性の確認

○こども家庭しあわせ課の考え（ハイリスクは委託、ポピュレーションは補助の考え）

産前産後のサポートについて、強い思いを持って関わっていただける方が多いのは、舞鶴の強み。

○産前産後支援体制…各々の機関ができること

（内容の確認）追加修正あれば

3. 意見交換

【資料2について】

- ・助産院は、産前から支援を開始しているため、産後だけでなく、産前を追記する。
- ・産後の身体の変化は、医療機関だけでなく子育てひろばでのHAPPY マタニティひろばなど、色々な所で妊婦本人だけでなく、家族にも理解してもらうように働きかけていく必要がある。例えば、骨盤底筋の話や骨盤ベルト、お腹周りのケアなど。
- ・地域リハビリ支援センターとしての立場では、出産時に脳出血などになって、母はICUという方もあるし、ベビーに障害があって早期から関わるケースもある。ダブルケア（育児と親の介護）のケアラーもある。高齢者の介護予防の場面では、女性の尿失禁予防の話をよくするので、出産後の早期にしっかり関わっておくことも大事。
- ・『家族まるごと』『地域で風土をつくる』自分たちも一緒に関わっていく。どこに行っても母に伝えられるように、となると、やはり【風土】なのではないか？資料2のすべてを支える・包むように各機関があればよいのでは？各機関がその力を発揮しやすいための、包み込むものとして両手で支えるようなイラストがあってもよい。このまち舞鶴がそうイメージできるようなものがあれば。それぞれビジョンに向かっていると分かる、連帯感・風土かもしれない。→包み込む絵は、舞鶴の地形でもよいかな？

【連携について】

- ・ハイリスクの人の各関係機関の情報連携がしやすくなるようなことが考えられると良い。産後のサ

ービスについて、医療機関で伝えてもらっている、今どのサービスが必要か分かっていない人もいます。妊娠中に、自分に合った必要なサービスを伝えられる人に出会えると良い。誰も相談にのってもらえなかったというようなことはなくしたい。チームの中で何回も伝えていく事が出来れば、妊婦とその家族に伝わるタイミングがあると思うため、資料2は、お互いの機関をつなぐのが⇒ではなく、輪（わ）になった方がよい。

【妊娠期の支援について】

- ・産科医療機関は、1～3か月に1回、こども家庭センターとカンファレンスの会議を開催し情報共有を行っている。妊婦健診で医師の診察の後、助産師が30分程度面談を実施。母のフォローについては優先的に考えており、お産が近づくと不安も強くなるため丁寧に関わっている。
- ・妊娠7か月アンケートの内容の見直しを検討中。アンケート内容を保健師が確認し、医療機関とも連携をしながら、訪問や面談に繋げている。
- ・精神面のフォローと産後のサポート体制を妊婦とその家族が考えることがとても大切であり、そこを丁寧に関わっていく仕掛けとして、面談チケットのようなものがあると、面談先の間口が広がり良いのではないかな。

4. 今後の方向性

資料4の説明

【ハイリスクとポピュレーションの表現について】

- ・ハイリスクとポピュレーションの区分けはない方が良い。市民にはわかりにくく、違和感を感じないような表現を考える方が良い。
- ・医療機関では、ハイリスクの方は、サービスやケアに差をつけるというよりも、関わり方が変わってくる。精神疾患既往、サポートがない、日々の入院生活で様子を見ていて心配な場合もある。舞鶴市はすごく恵まれている。ファミサポもしっかりしている。他市ではそうでもない。ファミサポで産後支援をしているのは、府内でも舞鶴市と他1～2市のみ。

【ハイリスクとポピュレーション以外の表現について】

- ・2軸よりもグラデーションがよいと思う。マズローの欲求5段階が分かりやすいと思っている。
- ・児童福祉界限では、3層がある。特に支援が必要な黒・グレー・白（予防）。子育てひろばのヘビーユーザーは白よりのグレーが多いが、最近は全員グレーと思っている。ハイリスクは個別性が高い人。下に行くほど汎用性が高い。より地域社会で健全に暮らしていくなど。

【補助事業（自主事業）について】

委託は、市が主体となり、本来市がやるべき事業を事業者をお願いすること。補助事業は事業者が主体となり、市が作る補助金の交付要綱に沿って事業を行う方式で、主体が異なる。事業者の思いで運用でき、自由度高く実施できるのが補助。今回の部会議論を踏まえ、補助制度での運用は選択肢の一つとして考えている。まだしっかり整理できていないが、ハイリスクは委託、ポピュレーションは補助という考え方もあると思う。

5. まとめ

- ◆委員全員で、産前産後サポート部会としての目指す方向性を決定することができた。
- ◆めざす方向性（ビジョン）に向かって、『医療機関と地域のサービスがもっと連携してつながり、市民に伝えていくためには何が必要なのか』や『どんなサービスが必要なのか』など具体的な話し合いができた。

6. 閉会

10月18日：第2回子ども若者支援会議

産前産後サポート部会のまとめを上程。上野会長より報告。

報告書は、部会メンバーに確認を依頼。（10月6日締め切り）

年度内（1月か2月頃）産前・産後サポート部会（座談会）予定

→HAPPY マタニティひろばの状況報告や産科医療機関で実施された取組、進捗などの共有。